

「高校生活は成長段階の一過程」

講師：島原病院医師 白石 雅也氏

この体育館にはいるのは初めてなんです。すごいなあと思いながら入ってきたんですけど、ちょっと僕が入ってきたら生徒さんが妙にぎわついていたみたいです。きっと「あ、ジャージじゃない！」「あ、スーツ着てる！」「走ってない。歩いてる！」と思って驚かれたのでしょうか。朝、7時半ごろ校門の前を走ってる。あれが私です。一応申し上げておきます。朝7時頃走ると、丁度汽車通学の生徒さんとたくさん会うので、今はちょっと時間をずらすようにしています。

高校生というのは人生80年のうちの3年間でしかないんですよ。高校生活を送るに当たって僕が言いたいことは本当にこれだけで、「3年間しかないから大事にしろ」ではなくて「3年間しかないから出来ることはたかが知れている」ということなんです。迷って当然。思うようにいかなくて当然。そういうことなんですね。自分の高校生の頃のことを考えてみても楽しいことなんか正直言ってあんまり無かったです。強いて挙げれば高校2年生の時男子クラスでその時陸上もばりばりやっていて、クラスにも仲良くしている人がたくさんいましたから…岩橋先生です。時々岩橋先生にもお話を振ると思います。よろしいですか？よろしくお願いします。

何から話をしようかと思っていたんですけど、やはり高校生の皆さんにお話をするに当たっては、自分が高校生の頃陸上を何となく初めて…という所からお話ししようと思います。私には二つ年上の姉がいます。姉も島原高校の卒業生です。高校に入ってまず姉に聞いたのは「体を動かす部活がしたいんだけど、厳しくなくて先輩が優しいクラブは何か」ということです。「それなら陸上がいい」ということでした。「先輩たちは優しいし、いつも木の下で休んでいる。楽でいい。」ということでしたので「じゃあそれがいい。」ということで決めたわけです。本当に何とはなしに入ったわけです。ただ僕の場合、高校に入った時点で色んなものを背負ってしまったんです。1年生の中に入学式の時に総代として何か読んだ人いらっしゃいませんか？一つお聞きしたいのは入学式で読んだこと覚えていらっしゃいますか？と言うことです。僕は入学して何ヶ月か経った頃には完全に忘れ去っていたんですけど…。要は一つの学年で試験を行えば1位から順にランク付けというものはされてしまいますよね。結局僕の場合は一番最初にそれを背負っちゃったものだから僕は3年間それに振り回されてしまったんですね。周りからはそういう目で見られる。陸上は何となく始めたんですけど、やっぱりグラウンドにいとそこでもランク付けをされてしまう。試験と同じように仲間と1000メートルとか2000メートルとか走ると当然差がついてしまう。僕は陸上部に入ったときは素人で、たとえばスパイクを付けて走るとか、長距離を走るときや練習の時と試合の時、ロードで走る時に違う靴を履くとかいうことも知らなかったくらいなんです。で、走ってはみるけどいつもドベ。周りからは「今度総代で入ったやつは大したことねえじゃん」とかそういう目で見られる。そんな調子で

したから春の高総体も当然出ていません。この後練習して、速くなって颯爽と卒業したとなればすごいことなんです、そうはいかなかった。7月に期末テストがあって、そのテストで部活が休みになって、仲間と「自主トレでもやろうや。」ということになって、外を走っていました。宇土の水源地の下まで走って行って、折り返して帰ろうとしたときコンクリートの道の上で左の足にもものすごい痛みが来まして走れなくなったんです。歩いて帰るのもやっとの事で、その時は一体何が起きたのか全くわからなかった。今は整形外科医をやっているから今だったら診断がつきます。脛骨疲労骨折というやつです。今だからわかるんです。その時は病院にも行ってないしレントゲンも撮っていない。当然診断も付けてもらってません。だけど今考えてみると疲労骨折に間違いはないと思います。しかしそのころは病院に行くにもどこに行ったらいいのかわからなくて整骨院に行って、丁度二ヶ月治療にかかりました。その時に陸上キチガイの整形外科医の白石先生という人はまだこの世にいないわけです。今僕の所にそういう生徒さんが来たら「疲労骨折ですね。」と診断して「どこでどんな練習していましたか。どんな靴を履いていましたか。」と言うことを聞いて、「1ヶ月半経ったら時々走れるようになりますよ。」ということをきちんと説明することが出来る。だけどそんなことも全然知らないし、結局完治するのに夏いっぱいかかってしまった。治ったと思ったら今度はアキレス腱を痛めてしまった。その原因も今だったらわかります。グラウンドを走るときいつもスパイクを付けて走っていたんです。そうしたら膝から下に負担がかかってしまう。まだその時は体も出来ていない。ただそれも今だから言えることであって、それを教えてくれる白石先生はやっぱりいないわけです。なんにも知らないまま過ごしたために高校1年の時は1回も試合に出られなかった。春の高総体。秋の新人戦。それから今解説をやらせていただいている県の高校駅伝。一切出ていません。要するに陸上は惨めなまま1年が終わってしまった。だけど、ここに総代として入ってしまったからにはそれなりの責任、責務があるわけです。特に私はこの辺の地区の生まれのものだから、いわゆる1小、1中、島高と言うやつです。じゃあ両親は名門かという、全然名門ではない。両親とも大学は行ってないし、高校生の頃から奨学金を貰っていましたから少なくとも裕福ではなかった。中学校の頃まではちょっと勉強すればそこそこ成績が取れるし勉強は出来る方だった。そこへきて総代で島高に入ってしまった。しかも1小、1中、島高というコースだと周りがるさいんですね。ちょっとでも成績が落ちでもしたら「あそこのお子さんは入らしたときは良かったとん、出らすときは全然だめやったとばい」とか言われてしまう。僕は何とか大学に入って何とか勉強して、何とか国家試験にも受かった。そんな中で僕がこれだけはやっちゃいかんと思っていたのは「親に迷惑を掛けちゃいかん。」というのはもちろんあるんですけど「何とか6年間で卒業すること。」それだけは何とかクリアしたんです。それが出来なかったらなんと言われるのかはわかっていますから。「白石さん所の雅也さんは大学には入らしたばってん走ってばかりおらすけん、やっぱり卒業しいきらっさんやったげな。国家試験もうからっさん。ちょうどよか。」と言われるのは目に見えていましたからね。ただ、大学はそんな調子でしたが、高校生の頃というのは一つの試験の結果というのに一喜一憂せんといかんから、それに本当に振り回されましたね。

今、理系の男クラスというのは有るんですか？僕らが高校生の頃は7クラスが文科系。2クラスが理系。そのうち1クラスが男ばかり。それが高校2年のクラスだったんです

けど、それは結構楽しかった。男ばかりというのはいいもんで、高校2年の時というのは故障も癒えて、県の高総体にも出場できたし、800メートルで予選通過というところまでいけたし、高校駅伝も走らせて貰って、そこそこ走れるようになっていた。よしこれから！という時に成績が落ち出しました。勉強はまじめにやっていました。じゃあ、あなになが足りなかったかという、一番の原因は僕の頭が悪かったということ。高校受験も大学受験も学習の量を増やしていけば有る程度の点数は取れるわけです。けどどんなものでも難しくなるに従って数をこなすだけではカバーできなくなってしまう。僕はそのことを理解するのに時間もかかってしまう。それに気づいたのは高校を卒業した後のことだった。本当に僕はものを理解するのに時間もかかってしまう。高校生の皆さんにいいこと「高校3年間ではたいしたことは出来ない。」それは本当にそうなんです。高校生のうちに自分が何に向いているのか、何が出来るのかを見つけ出すのは本当に難しいことなんじゃないかな、と思います。大学に行くということを目標に高校に入ってきたのなら、試験とか受験とかいうものはいやでも飛び越えなくてはならないハードルなんじゃないかなと思います。僕は高校2年で成績が落ちだした時、やはり周りからは色々言われたんですね。自分自身にも自信がないし、すごく迷いもあった。3年の高総体までやろうかどうしようかと迷ったあげく、結局陸上からは身を引いてしまった。四十数年生きてきた中で最大の心残りはそれです。

僕は大学にも行ったけれど、試験もたくさん落ちた。要するに僕は劣等生なんです。僕は今医者の世界に身をおいていますけど、医者同士の医者に対する評価というのは厳しい。たとえば整形外科でいえば足ならどここの誰先生に見て貰えとか、スペシャリティがないと医者同士では評価してもらえない。僕みたいな馬の骨のような医者は評価されない。僕は今でも劣等生です。高校2年のときから自分の頭には見切りは付けているんですけど。生徒の皆さんから異論はあるかもしれませんが、それでも大学受験では余程難しいところを狙うのでなければ、そこそこの成績をとれば、あるいはまじめにやりさえすればそこそこの所にはいけるんじゃないかと僕は思っています。僕は高校3年生のとき、当然県の高総体には出ていません。陸上部のOB君にからかわれもしたし、根性なしとかもいわれた。3年生の時はもう陸上からは身を引いていましたから、黙って耐えて試験である程度結果を出した。けど二次試験の結果が出る前には「大学では走ろう。」と心に決めていましたからグラウンドを走っていました。高校生の皆さんにはあまり楽しくない話ですよ。

長崎大学に行ったんですけど、大学というのはすごくいいです。何がいいかというと、一回一回の試験で周りからいちいち色々いわれることがない。ただし、自分のことは自分で責任を持たなければならぬ。そして、サークルもたくさんある。その中から必ず自分に合ったものを見つけることが出来る。バイトをして宙ぶらりんながらも社会というものを知ることだって出来る。ふるさとを離れてふるさとや両親のありがたさを知ることだって出来る。そういう意味では大学とは本当に良いところだと思います。大学に入って再スタートという感じで陸上をまた始めたんですけど、いざ入ってみると400メートルハードルで県の記録を持っているようなやつがいる。そんなやつはうじゃうじゃいる。僕なんか実績も何もないのに入っていいのかなと思ったんですけど、別に周りが色々いう訳じゃないから、すんなり身を置かせてもらって、どっぷり6年間はまっていたというのが現実です。

生徒さんに聞きます。受験勉強好きですか？きついですよね。僕はそんな調子で量をこ

なせばなんとかなると思ってそんな発想で勉強していましたから、大学に入ってから、大学受験の頃より勉強する事はないだろうと思っていましたが甘かったですね。医学部というところはこれでもかこれでもかこれでもかというくらい試験や実習が押し寄せてくる。例えば内科だけでもいくつもある。外科だってたくさんある。それを授業があつているときにクリアして、卒業試験ではもう一度クリアしなければいけない。大学時代は毎日勉強に追われまくったという印象がある。僕の正直な感想は、伝統ある大学で学問をさせてもらったというより、国家試験を受けるための専門学校に行かせて貰ったという感じです。今、この仕事に就いてみて、いまでもやっぱりこれでもかこれでもかなんです。仕事が次から次にやってくる。とりあえず目の前のことを一つ一つ繰り返してクリアしていく。そこでわかったことが「人間は一生かかって成長する。」ということです。何度も言いますが高校生活なんていうのは所詮その一生の中の三年間でしかないという事です。自分の所に患者として中学生や高校生がやってきて、学校や部活やいろんなことを聞きますけど、いつも思っているのは自分のような高校生活を送って欲しくないということ。迷うのも一つなんですけど、今思うのは「迷って当然だし、プロ野球選手みたいに一つのことにまっしぐらに進んでいける人というのはごくごく一部の幸せな人なんだな。」ということです。ということで、そんなふうに分の所に来た学生には「こうしなさい、あしなさい。」とかはあまり言わないようにしているんです。

このごろよくテレビや漫画で研修医のナントカとかやっていますが、研修医の生活というのは何もないんです。時間もない。お金もない。ついでに言うと人権もない。そんな生活をしていて僕はまた走り始めたんです。走ると心がスツとする。そうやって走っているうちに記録が出るようになってきた。僕はそうやっていつも遅れながら成長していたんです。高校生の時に出しておかなければいけない記録を大学生で出し、大学生で出す記録を働き始めてから出し…というように。やっぱり遅いです。でも遅い分長く続いている。

僕は頭が悪くて、ということを行いましたけど、大学生の時も社会人になってからも自分以外におもしろいことを持っているのはとてもいいことなんですね。僕の場合は走ることだった。色んな土地を襷を持って走る。これで色んな地域を知ることができた。色んな地域を知る中で島原半島の良さを知ることができた。

君達も大学なり就職なりでこの場所を離れるといろんなことがわかります。この辺は大学のスズメになるんですが、自分のことは自分でやりなさい、ということです。自分で生活をしていくうえで島原半島の良さというのはよくわかります。見識を広めるのには自分が住んでいるところから出てみないとわからない。僕の場合は走ることで色んなことを知ることが出来たし、各地に色んな職業の友達も出来た。これは仕事以外に僕が「何か」をやってきたことの結果だと思うんです。

今僕は島原に帰ってきて6年が経ちました。6年というと中学校と高校を足した年数です。けどそんな感じは全くしない。これを考えてみても高校の3年間というのは本当に短いし、大事にしてくれればそれに越したことはないけど迷って当然、悩んで当然、高校時代に努力をすれば身に付くことも有るけど、努力という言葉はやすやすと使っちゃいかん言葉だと僕は思うんです。人が1時間やるところを2時間やった、それが努力かというところではない。やったことにある程度結果が伴わなくちゃいけない。というのは少し厳しい言い方かもしれないけれど、自分は医者の世界では劣等生だからどういふ努力ができ

るかと考えて色々やりました。今だったら外来の時間を人より長く設定するとか、社会人一年目のころには月に18回当直をするとか、そういうことしかできない。でも自分の頭で考えて、具体的に行動する。こういうことがあると自分なりにやったなあと思うんです。高校生の皆さんは人と違う自分にしかできない努力をするというのは難しいと思います。3年間というのは本当に短いし、皆さんの様子を見てると本当に時間もないし、頑張っていると思います。だけど今は今できることをやってください。人生は長いので君達が努力をする場面はたくさんあると思います。頑張ってください。

